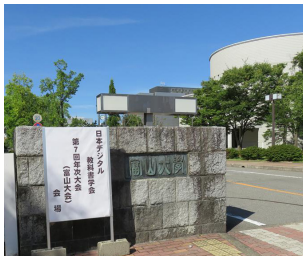
日本デジタル教科書学会
ニュースレター No.14
2018.09

編集：日本デジタル教科書学会　広報委員会
（news@js-dt.jp）
発行：日本デジタル教科書学会　事務局
〒953-0023　新潟県新潟市西蒲区竹野町 163 番地
新潟市立巻北小学校内
HP：http://js-dt.jp　　e-mail: office@js-dt.jp

日本デジタル教科書学会第 7 回年次大会（富山大会）御礼

長谷川春生
大会実行委員長



2018 年 8 月 18 日（土）19 日（日），富山大学人間発達科学部で開催された日本デジタル教科書学会第 7 回年次大会（富山大会）には，約 150 名の方々からご参加をいただくことができました。一般研究発表（口頭）30 件，一般研究発表（ポスター）6 件，課題研究発表 9 件，計 45 件の発表は，どれも興味深くすばらしいものでした。

基調講演では，放送大学教授の中川一史氏から「我が国のデジタル教科書における現状・課題・展望」というテーマで貴重なお話をしていただきました。学習者用デジタル教科書の今後の在り方について，活用，スキル，制度，環境の 4 点から分かりやすく解説をしていただき，本学会における今後の研究の方向等を考える上でも大変参考になりました。

学会誌掲載論文講演では，武蔵野女子学院中高等学校の板垣翔大氏から，デジタル教科書研究第 5 巻に掲載された「miyagiTouch：タブレット PC 用電子黒板アプリケーションの開発と実用化―宮城県における調査・事例を中心に―」についての講演をしていただきました。掲載論文の内容だけではなく，miyagiTouch 開発の背景や開発時の苦労，研究のやりがいや楽しさなど，論文だけでは伝えきれない研究の背景や魅力を十分にお伝えいただきました。この講演は，編集委員会による初めての企画でしたが，大変魅力的な講演となりました。

本年度の若手優秀賞は新宅直人氏，若手奨励賞は蔵冨恵氏，北野彩佳氏が受賞されました。若手優秀賞・奨励賞は，35 歳以下の発表者の中から，予稿原稿による審査を通過した方について，さらに，発表による審査を行い決定しています。3 名の方々の研究は，大変意欲的で興味深い研究であり，今後のさらなる研究を期待します。

課題研究発表では，情報活用能力，プログラミング教育，特別支援教育の 3 つのテーマについて，それぞれの研究発表を基に，コーディネーターの進行による活発なディスカッションが行われ，議論を深めることができました。一般研究発表でも，口頭発表とポスター発表の両方で，活発な意見交換が行われました。ワークショップ・セミナーも，人口知能，プログラミング教育，iBooksAuthor の活用，教育統計について，体験等も取り入れた有意義な情報提供がされました。懇親会にも 60 名を超える方々からの参加をいただき，楽しく情報交換を行うことができました。

参加者，発表者の皆様のお陰で，このようなすばらしい大会となりました。大変ありがとうございました。また，本大会を支援してくださった協賛企業様にも感謝いたします。

本大会での熱気が来年度の第 8 回年次大会（新潟大会）に引き継がれ，さらに発展することを期待しています。

日本デジタル教科書学会　会長
第 7 回年次大会（富山大会）　実行委員長
長谷川春生

日本デジタル教科書学会第７回年次大会（富山大会）
基調講演
『我が国のデジタル教科書における現状・課題・展望』
放送大学教授　中川 一史 氏

第７回年次大会　若手優秀賞及び若手奨励賞受賞者

若手優秀賞　受賞者
新宅　直人 氏（杉並区立天沼小学校）
若手奨励賞　受賞者
蔵冨　恵 氏（愛知淑徳大学）
北野　彩佳 氏（愛知淑徳大学心理医療科学研究科）

■ 研究会「プログラミング教育の可能性」のご報告

2018 年 5 月 19 日 (土) に，ダイワボウ情報システム東京支社で開催された本学会主催の研究会「プログラミング教育の可能性」には，小中学校等の先生方，関係する企業の皆様からご参加をいただき，とても充実した研究会となりました。内容を報告いたします。

情報通信総合研究所特別研究員の平井聡一郎氏による講演では，「これならできるプログラミング教育，ここから始まるプログラミング教育」というテーマでお話をしていただきました。２０２０年からのプログラミング教育全面実施に向けて，ICT 機器整備の必要性や，教育現場で進めるべき準備について，詳しく解説をしていただきました。その後，アンプラグドプログラミング，ビジュアル型プログラミング言語，ロボット操作の体験活動を通して，参加者は，小学校におけるプログラミング教育の全体像をつかむことができました。

つくば市立春日学園義務教育学校の藤原晴佳氏による実践発表「低学年におけるプログラミング教育」では，プログラミング的思考を生かした授業実践について，具体的に示していただきました。授業実践の在り方をビデオで紹介していただくことにより，そのイメージをしっかりと持つことができました。また，プログラミング教育は，授業中だけでなく，プログラミング的思考に関わる普段からの意識付けが大切であることが

情報通信総合研究所特別研究員
平井 聡一郎氏

つくば市立春日学園義務教育学校
藤原 晴佳氏

よく分かりました。また，二等辺三角形の作図の手順について参加者が考える体験では，プログラミング的思考を具体的に理解することができました。

札幌市立発寒西小学校の山田秀哉氏（本学会副会長）によるワークショップ「プログラミング教育の可能性」では，スズキ教育ソフトが開発した「ぴたっと！プログラミング」の活用体験を行いました。スズキ教育ソフトのスタッフの方から，このソフトウェアのコンセプトや活用方法について分かりやすく説明をしていただいた後，風呂掃除をロボットに行わせるためのプログラミングを例に活用体験を行いました。小学校におけるプログラミング教育の具体的な活動例を知ることができました。

札幌市立発寒西小学校
山田 秀哉氏

まとめでは，リアルタイムのアンケートツールにより，プログラミング教育普及のポイントや参加者のこれからの決意について共有しました。決意については，「つべこべ言わず，やります」「まずはできることをやってみます」「案ずるより産むが易し」などの前向きな意見が多くありました。

プログラミング教育全面実施向けて，どのように準備を行い，どのように授業を行えばよいかを考えることができる有意義な研究会となりました。講師の先生方，参加者の皆様，大変ありがとうございました。

（文責：研究委員長　広瀬一弥）

■ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

本学会では，会員の研究活動を支援するために，研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大１０万円，研究グループへの助成額は最大５万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど，応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト（http://js-dt.jp/research_support/）をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし，本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

■ 研究会開催助成について

本学会では，会員の皆様の主体的な研究会の開催，研究活動の活性化，研究の発展，会員相互の連携を促進すること等を目的に研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイト（http://js-dt.jp/seminar_support/）をご確認下さい。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

■ 学会誌「デジタル教科書研究」への投稿のご案内

学会誌「デジタル教科書研究」は，研究者と実践者の自由な発想に基づき，デジタル教科書・教材等の発展の場として機能することを目的として刊行し，投稿論文の通年募集を行っております。

詳しくは，学会 HP（http://js-dt.jp/ 学会図書館 / 学会誌「日本デジタル教科書研究」/）をご確認下さい。デジタル教科書研究およびその周辺領域研究に関わるみなさまの積極的な投稿をお待ちしています。